

血液をサラサラにする治療について

心血管の病気においては、血液をサラサラにする治療が必要になることがよくあります。“血液サラサラの薬を内服していると納豆が食べられないのか?”という質問を受けることがあります、それは使っている薬によります。

まず血液サラサラの治療(抗血栓療法といいます)には2種類あります。

①抗血小板療法と②抗凝固療法です。血栓が原因となる病気はたくさんありますが、血栓ができる場所によって治療法が異なります。

血液の流れが速い動脈系にできる血栓は、その形成に血小板が関与しており、抗血小板療法が適応となります。病気の種類としては、心筋梗塞やアテローム性脳梗塞、閉塞性動脈硬化症などがあります。抗血小板療法に使う薬で有名なのがアスピリンです。心筋梗塞患者さんや脳梗塞患者さんの多くはアスピリンを服用しています。アスピリンは古くからある薬で、安価で有効性が高いことが知られています。

一方、血液の流れが遅い静脈系にできる血栓は、凝固の活性化が原因であり、抗凝固療法が適応となります。病気としては、肺塞栓や深部静脈血栓症があります。心房細動という不整脈も血栓のできやすい病気で、抗血栓療法が必要です。血栓のできる場所は左心房(特に左心耳)という動脈系の場所ですが、血栓のできる原因が血液のうっ滞であるため、抗凝固療法が適応となります。抗凝固療法で使われる薬はワルファリンです。ワルファリンも古くからある薬で、安価で有効性の高い薬ですが、服用していると納豆は食べられません。食べると薬の効き目がなくなってしまうからです。

抗血栓療法

①抗血小板療法

適応:心筋梗塞、脳梗塞など

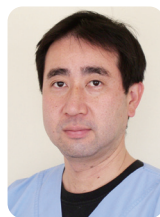
薬 :アスピリン

②抗凝固療法

適応:心房細動、深部静脈血栓症など

薬 :ワルファリンなど

最近、(非弁膜症性)心房細動に限り、ワルファリンに代わる新しい抗凝固薬が使えるようになりました。この薬は納豆を含め食物の影響を受けませんが、値段が高いことがデメリットといえます。心筋梗塞(特にステント治療後)と心房細動のどちらも持っている患者さんは抗血小板薬と抗凝固薬のどちらも服用する必要があり、出血しやすくなるので注意が必要です。ただ抗血小板薬と抗凝固薬の併用については、薬の組み合わせや量、服用期間など一定の見解がないのが実情です。



循環器内科部長
大野 則彦

(社)日本循環器学会認定循環器専門医、
(社)日本内科学会認定総合内科専門医
山形大学1993年卒業

ご予約方法

電話予約

04-7123-5901

月曜日～土曜日 9:00～16:00

ただし、祝日および病院指定休診日を除く

スタッフ急募 助産師正社員・看護助手パート社員

お問合せ・お申し込みは

キッコーマン総合病院 採用

検索

<http://hospital.kikkoman.co.jp/recruit/index.html>

kikkoman

キッコーマン総合病院

〒278-0005 千葉県野田市宮崎100
電話04(7123)5911(代) FAX 04(7123)5920
<http://hospital.kikkoman.co.jp/>